

「平和」を守り、
「人の心」を大切に作る主権者づくり
—総合学習、学級活動や学年通信を通して—

- 1, はじめに
- 2, 1年次の実践
- 3, 2年次になっての実践
- 4, おわりに

成果と課題、子どもたちの変化

三重県教職員組合
中村 幸博 (ナカムラ ユキヒロ)
伊勢市立小俣中学校

今次教研で論じられた内容と今後の課題

今次教研では計8本の報告書で、2つの柱にそって討議がおこなわれた。討議内容や助言・成果と課題を含め、以下にまとめることとする。

(1) 地域・沖縄・福島から平和を考える

明和中分会（多気）の木田繁彦さん（代理・鶴田恵利さん）の『「語り継ぐ者」として学び、つながる』の報告では、校区にある防空壕を教材化するために、この壕の関係者（千葉県に在住）である元隊員を探しあて、コンタクトをとりながら戦争体験者の想いを知り、同僚にも発信しつつ地域にある戦跡の周知を広げようというとりくみがあった。まだ生徒に伝えるほどすすんではないが、ゆくゆくは明和町全体に広げたいという展望と熱意がこもった報告であった。

小俣中学校（伊勢）の中村幸博さんの『総合学習、学級活動や学年通信を通して「平和」を守り、「人の心」を育てる主権者づくり』の報告では、生徒自身が当事者意識をもてるか、現在と過去の戦争をつなげられるかを意識し、地域にあった戦争の学びや戦争体験者の方を学校に招いて、当時の体験を聞く活動や、オキナワの学習（戦争・基地問題）を通して平和学習をすすめた。生徒の感想などはかならず通信で返しながらか、過去にあった事実を伝え、さまざまな面から生徒を刺激し、心を育てていくとりくみであった。

度会小分会（度会）の大西徹さんの『平和について考えよう』の報告では、子どもたちの実態から、原爆被害者への差別と、原発事故での被災者への差別事象をつなげて、クラスの子どもたちに自分たちの行動や言動を振りかえさせるとりくみであった。とりくみのなかで子どもたちのようすは少しずつ変わっていき、クラスで「キッズゲルニカ」の共同作品を作成し、卒業式に飾ることができたという。身近な差別をふまえて平和教育につなげていく実践であった。

討論のなかで、平和学習においても小中学校の連携が必要であるという声上がり、小学校のうちに、6/23、8/6、8/9、8/15が何の日であるのかということ指導しておく必要があるのではという意見も出た。また、放射線の副読本のあつかいについて助言者から、気をつけないと原発推進にとりこまれてしまう可能性があるとの示唆や、地域教材について若手の教員がそれらを知る機会が少ないことなどの課題があることを教えていただいた。

(2) 教科書教材を活かした平和学習

第二小学校（松阪）の川井正洋さんの『子どもたちに戦争、平和をどのように伝えていくのか』の報告では、小学校3年生の国語科「ちいちゃんのかげおくり」を学ぶ事前学習として、絵本「伸ちゃんのさんりんしゃ」を活用し、広島に落とされた原爆の被害から戦争について学ばせてから授業実践にとりくむ報告があった。内容をふまえ、原爆の被害写真をどこまで子どもたちに提示するかのむずかしさや、ちいちゃんのかげおくりの最後の場面が「家族に会えてよかったね」にならないためにはどのように授業展開したらよいかなどの討議があり、活発な意見交換がなされた。

野登小学校（亀山）の奥山翔平さんの『子どもたちが身近に感じる平和学習』の報告では、4年生に対し、既習した「ちいちゃんのかげおくり」の復習から、映画「火垂るの墓」を短編編集し、戦後に生きた戦災孤児（浮浪児）の写真を用いて平和学習を展開した報告がなされた。

ここでも、資料として提示した浮浪児の写真の是非について意見交流があり、戦争と現在の距離が離れるにつれ、戦争の事実をどう提示するかのむずかしさを感じた。

玉垣幼小分会（鈴鹿）の多湖礼奈さんの『未来の平和を考える』の報告では、ご自身の曾祖父がミャンマーで戦死されているが、最近まで平和教育に関心がなかった経緯、小学校4年生の国語科「一つの花」の指導がうまくいかなかったことをふまえ、三教組青年部広島平和祈念行動へ参加し、そこで体験した学びを子どもたちに伝えた。「平和への誓い」（2019年）を子どもたちの前で読みあげたときの反応など、指導者の意識が変わることで子どもたちの意識も変わったという報告であった。

草生小学校（津）の村田翔さんの報告は、小学校5年生の国語科「たずねびと」の読みとりについてWhich型（選択式回答）授業実践を用いて子どもたちの読みを深める実践であった。

名張小分会（名張）の木下進さんの『平和の実現のために私たちが今できること』の報告では、支部分科会で授業実践をもちよったり、公開授業を通して学びあうなど、名張支部の平和教育に対する熱意が伝わってきた。5年前、参加者が少なく平和教育部会が成立しなかった状況から、現在では17人の部員で活動しており、そのうちの半数が青年部であるという。若手～ベテランまでさまざまな授業実践が報告書には盛り込まれており、勢いを感じる報告であった。

助言者からは、教科書を使うことは年間をつうじて平和教育をおこなうことができるのでいいことだとの意見があった。また、世代交代しながら平和教育の実践がつづいている面もいい傾向であるとのことだった。

成果と今後の課題

平和教育においてさまざまな世代が継承し、実践につながっていることはよろこばしいことである。一方で平和教育が日本の被害面に偏っていることについては助言者からも警鐘があった。真珠湾攻撃、沖縄戦での日本兵の地元民虐殺などの加害の面について、ほとんどふれることがないのは大きな課題である。

また、平和教育は子どもたちの心にどれだけ大きく印象づけることも大切である。言葉の読みとりだけでなく、過去に起こった事実について正しく伝え、子どもたち自身に戦争と平和を考えさせていく必要がある。

「いつまでも戦後であってほしい」という戦争体験者の言葉の重みをふまえ、今後も実践を重ねていく必要がある。

「平和」を守り、「人の心」を大切に作る主権者づくり

—総合学習、学級活動や学年通信等を通して—

三重県伊勢市立小俣中学校 中村 幸博

昨年度（2020年度）4月より、小俣中学校（現2年生221人）ととりくんでいる「平和を守る心を育てる」とりくみを簡潔にまとめたものである。

1, はじめに

昨年度よりもちあがりの生徒221人を前に、学年団で計画的に平和の大切さを学ぶ、加えて、人権を大切に作る学習に生徒と計画的にとりくんでいくことを今年度当初も確認した。昨年度の目的・目標については、

○目的 自分の周りの人権・平和を守るための実践行動ができる力を育み、
その主体者となっていく

○目標 県人権教育基本方針の目標に準じる

というものであったが、目の前の生徒たちが今置かれている穏やかな状況—それを平和というのであればそうである—to安住し、戦争、争いというものを知らなさすぎる実態が分かってきた。それは、2020年度実施した「伊勢市に戦争があった」の紙芝居と坂本照子さんの戦争体験のお話からの感想から見られたこと(後述)である。

戦後76年。COVID-19「新型コロナ・ウイルス」は依然として収束・拡散をくり返しなが
ら、今は変異種が蔓延傾向にあり、そのなかで東京オリンピックが開催されている。どこが
平和なのか大きな違和感を覚えながら、日々過ごしているのが私の実情である。かつての
日本が起こした太平洋戦争、大きくは第二次世界大戦についての学習、さらにそこから立ち直
ってきた平和を守るとりくみや課題についての理解と認識を深めていく学習と平和を守って
いく行動につながる意欲・態度、方策を考える姿勢を育てていくことは両輪であると考え、
本テーマ設定をした。さらに強く言えば、この学習が、平和を守り、「人の心」を大切に
していく主権者を育てていくことにつながっていくと考えたからである。

そこで、さまざまな戦争や平和を守る活動の資料や情報を、子どもたちが「正確に」学習
する、あるいは出会い学習を通して、出会う方々の熱い思い、強い意思から、子どもたちが
何かを感じとり、「次に自分たちはどうしていくか」を考えることができるのではないかと、
そうして、そのことが学びをひろげ、深めていき、主権者づくりの第一歩になっていくの
ではないかと、との仮説を立て、とりくみをすすめることにした。

2, 第1年次の実践

(1) 全体を通して意識してきたこと

- ・主たる学習や実践は、学年全体7クラスでとりくむこと
- ・学年団を中心に、子どもたちに「学年は一つ」という言葉かけをおこなってきたこと

(2) 具体的な学習活動

①年間を通しての仲間づくり

- ・子どもの生活背景を理解したうえでの、日々の生徒との交流、学習指導
- ・『やりとり帳』を通しての生徒理解
- ・子どもの実態を考慮しての不定期な学年集会

・プチカウンセリングの年2～3回実施 など

4月～6月 ・道徳での学習の推進

・学年集会「自分たちの一月を振り返って」 など

・プチカウンセリングの実施

・学年での人権学習推進と学年通信での啓発

「新型コロナ・ウイルスに負けない」「ちがいのちがい」「フワフワ言葉とチクチク言葉」の学習

②中村進一さんによる紙芝居『二度と戦争はしません』上演と子どもたちと意見交換をおこなう。

同時に坂本さんによる戦争体験講話と焼夷弾の破片や防空頭巾、兵士の水筒など実物の見学し、さわってみる。(2020年7月)



写真左が中村進一さん

右が坂本照子さん

(資料1：紙芝居等出会い学習後の生徒の感想—学年通信抜粋)

資料1にもあるように、おじいさんやおばあさんと同居している子どもが少ないことや戦争を体験している方から話を聞く機会がないこともあり、伊勢市でも戦争被害が広範囲に数多くあったことを知らない子どもが多かった。一方で、「私たちが語りついでいなくてはいけない」とか「戦争のない世界へ仲間と取り組んでいきたい」といった自分ごととしての思いを述べる子どもたちも少なからずいることが次への学びにプラスになると考えた。

③全クラスで3時間実施した部落問題学習(2021年2月)

題材『何を伝える、どう伝える』(県人権教育センター学習教材より)



結衣さんの母の「北町に遊びに行ったらあかんって言う人がたくさんいるからやよ。それに、以前北町の人とケンカした人もいるらしいよ」の発言に対して、自分ならどう答えるか、を考える『誕生会』

(同上) 上町に住んでいる友だちの健の誕生会に参加することで、おじいさんから「行ったらあかん」と言われている孝史さんへのアドバイスや健と大ゲンカした後の、孝史さんとおじいさんとの対話での孝史さんの返答を考える。

(2組の授業後の板書 写真左)

今回の偏見や差別事象について、「それはおかしい」と考える子どもが多く見受けられた。また、どのクラスも自分なりの意見や思いを述べるようになってきていた。学年が深まり、子どもたちのたがいの理解がすすんでいるためだと思われる。

④ 1年生最後の学年集会にて（2021年3月）

学年集会は、計画的に随時おこなっている。これは、教員主導のときもあれば、学年生徒会主体（小侯中ではこう呼んでいるが、室長・副室長会）のときもある。どの学年集会でも、各クラスの室長あるいは副室長が自分のクラスの成長した点や課題を発表し、学年全体で共有するように努めている。また、室長代表が学年全体のようにすやめざしていき



いところを全員に伝えるようにしている。これらすべて、学年生徒会の話しあい活動の賜である。また、講話等をおこなう教員も、子どもたちのよい点と補うべき点・修正する点の両方を伝えるようにしている。

学年集会の全景と前にならぶ室長たち（資料2－学年集会での中村の説明資料）

3, 2年次になつての実践

(1) 全体を通して意識してきたこと

- ・主たる学習や実践は、学年全体7クラスでとりくむこと
- ・学年団を中心に、子どもたちに「学年は一つ」という言葉かけをおこなってきたことに加えて、子どもたちの自治的な活動を増やそうという教員の姿勢と『気づき、考えて動こう（考動しよう）』という言葉かけをおこなってきていること

(2) 具体的な学習活動

①年間を通しての仲間づくり 昨年度と同じです。

②オキナワ学習（2021年6月）

沖縄慰霊の日にあわせて、翌日6/24（木）に全クラスで「オキナワ」について実施した。学年全体のとりくみであったが、視点を「沖縄戦」に置くクラス、「現在の沖縄」に触れて考えさせていくクラスとあり、実践が興味深かった。

教員全員が、「オキナワ」について学び、パワーポイントで資料を再編集したり、動画を探して提示したり、とわたしたち自身の学びにもなって、子どもたちとの学びがより豊かになったと感じている（パワーポイントの資料は伊勢市教推研平和教育部会のお2人の先生にいただき、子どもたちにあわせて編集したものである）。

（資料3－学習後の学年通信）

2時間つづきの学びを通して、子どもたちが昨年度より成長した心が見受けられる。昨年度の紙芝居と出会い学習の後の感想にも見られたが、「この体験や見聞きしたことを伝えていかなくては」「忘れてはいけない、風化させてはいけない」との思いをもつ子どもが増えてきていると感じている。

（以下、生徒の感想・原文のまま－抜粋）

- ・戦争のつらさやこわさなどは、実体験した人しか分からないもので、私たちにはまったく想像もつかないほど、つらいものだったんだなと思いました。A先生が言っていたように、味方同士で争いをするような、戦争は人を人でなくすものなんだなと改めて感じました。沖縄戦に限らず、戦争は恐ろしいものだけど、それを繰り返さない、当時の人の死を無駄にしないためにも、私たちは戦争に向き合い、学んでいく必要があると思います。

- ・戦争で罪のない人々の命が失われ、中高生の人たちは医療など、自分のしたくないことをする生活があったんだということを知りました。私がそこにいたら、人生をあきらめていたと思うので、それでも頑張って医療などをすることはすごいと思いました。
- ・私は沖縄戦のことをあまり知らなかったけど、今日話を聞いて、悲惨な様子が伝わってきた。私たち中学生の同年代の子がその時代に、鉄血勤皇隊やひめゆり部隊として、戦場に行ったり、負傷した人を看護したりしていたと知って驚いたし、小学生くらいの子どもを疎開させる船が沈没したことをだまっておくのはひどいと思った。親も心配だし、子どもも不安だと思うので、そういう事実をふせておくのはいけないと思った。また、1,200人いたガマと100人いたガマの話で、1,200人いたガマの方は英語が分かる人が勇気を出して外に出て行ったから、全員の命が助かったけど、100人のガマの方は、集団自決したと聞いて、「英語が分かる人」がいたかどうかもだけど、「勇気」があるかどうかで、こんなにも運命が変わるんだ・・・と思った。今は何も怖がったりおびえたりせずに夜も眠れるし、毎日あたりまえのように過ごせているけど、実はあたりまえじゃないんだなと思った。「人が人じゃなくなる」「戦争を二度と起こさないためには、平和に暮らせていることに感謝して、私たちが戦争のことを知って理解して、語り継いでいくことが大切だと思った。
- ・勝手に国同士の戦争を始めて、いきなり戦わされて、命を落とした人が数多くいると思うと、国はすごく勝手だと思った。すぐに暴力に発展するような話し合いをするなら、国を任せられないとも思った。戦争があったことは忘れてはいけないが、僕たちでは戦争を始めることも終わらせることもできないと思う。
- ・今まで、沖縄は自然豊かなリゾート地というイメージがあったけど、今日の授業で、沖縄は他の都道府県ではおこっていない米軍の上陸や対空砲火など戦争の武力をふるわれているので、沖縄は他より命の大切さとか戦争のこわさがよく分かっているんだろうなと思った。今も沖縄は、日本の中にある米軍施設のうち約70%があって、軍用機の離発着での騒音や事故など、アメリカ軍からの被害が多くあります。この状態が早く改善されるといいです。
- ・戦争は本当に悲惨なものだと改めて思いました。これからも戦争を起こしてはいけないから、社会や道徳、総合などの授業で戦争のことについて次の世代の人たちに伝えていく取り組みはとても大切だと感じました。僕もその一人になっていきたいです。
- ・戦争はやはりダメだと思った。今回の授業でも、日本の戦争のことについて学んだけど、これが世界のどこかで今も起きていることを考えるとおそろしいし、悲しいと思った。日本は原爆投下など戦争の悲惨さを痛いほど知っている。そのため、僕ら日本人がそっせんして、戦争の怖さや悲惨さ、悲しさを世界中に伝えるべきだと思った。

(下線は担任の先生によるもの)

4. おわりに ー成果と課題、子どもたちの変化ー

成果の一端は前項(2)②オキナワ学習で述べたことではあるが、ここでは(1)で伊勢市教研平和教育部会の成果と課題を、(2)で子どもたちの変化を記しておきたい。

(1)伊勢市教研平和教育部会の年度半ばでの成果と課題

年間6回(市の教推研活動も含め)ある市教研の分科会の集まりも、コロナ禍で第1回が

中止となったが、2回目はZoom^{※1}で、3回めは対面でおこなわれた。夏季休業終わりの市教研は再びZoom開催での意見交流、討議となった。以下は、市教研での意見交流の概要である。
(^{※1}「Zoom」は、Zoom Video Communications, Inc. の登録商標である。)

レポート数4本、参加人数は5人。会を運営していく最低の人数である。しかし、各レポートの内容は熱く、SDGsに関するとりくみや、伊勢市大空襲の米軍資料（写真右、米国国立公文書館・米軍戦略爆撃調査団文書）とそれを使用した6年生でのとりくみ、地域の方からの聞きとりをして伊勢市、特に小俣明野での空襲を絵本化し、読み聞かせをしていくとりくみなどである。伊勢市大空襲と絵本化に関連して、今年5月に逝去された方（桑名、戦争従軍、加害・被害の両面から戦争を語った語り部）の紹介があり、インターネット検索をして、その画像や名古屋市内の高等学校がその足跡を記録した映像等を確認した。



また、レポート発表の質疑応答のなかで出た「小中での平和教育の連携」での意見交流もおこなった。そのなかで、中学校の立場では、8/6、8/9、8/15、6/23には、過去に史実で何があったのかをくりかえし、子どもたちには把握させてほしいとの提言があった。さらに、1945年の伊勢市の空襲の日7/28～29も、子どもたちは覚えておいてほしい、との参加全員の願いが一致をした次第である。加えて、小中学校ともに、さまざまな理由で平和教育、戦争と今を考える時間がなくなるなか、体験等を対面で聴く、五感で感じとる、あるいは視覚教材で子どもたちの感性に訴える活動の必要性和その実践を全員で確認した。（『白旗の少女』『この世界の片隅に』、写真集『戦争』など）

最後に、アフガン戦争・内紛が話題にのぼり、現代のことを伝えるのは必須であるが、指導者の思想を加えるのではなく、事実を伝え、子どもたちがどう感じ、どう言動をしていくのかを見守り指導していくことが望ましいのでは、とも確認した。

分科会の参加が少人数であったことが、幸いにも個々の質問や意見を言いやすい状況であったし、深みのある意見交流になったと感じている。逆に考えれば、少人数であることが大きな課題であり、これはここ数年間の課題でもある。レポート内にもあったように、平和を語り継ぐ担い手として、今いる分科会員だけでなく、思いを一にする仲間、特に若い教職員を増やし、1年に1回と言わず、数回、「今の平和の何たるか」を伝えるようにしていくようにしていきたいと強く思っている。

(2) 1年半を振りかえって

子どもたち一人ひとり、個人差はあるものの、人権の課題や平和を考えることにむきあったときに、一人で、あるいは仲間と考へて、人の心を大切に、平和を「守る」「守っていく」という姿勢や意識の高まりが見受けられるようになってきたと感じている。しかし、221人の集団となるとまだまだである。成果として具体的には、

- 人権や平和、環境などの課題に一人ひとり、集団でよく考へ、発言できるようになってきた。
- 教員のさまざまな仕かけが子どもたちの心を豊かに耕すことを実感している。
- 中村さんの紙芝居の感想や「オキナワ学習」の感想にもあるように、「主権者」として

も芽生えが見える。特に「オキナワ学習」の沖縄戦と現在の沖縄を画像を通して学習した2クラスのなかで、「今もかつても沖縄は同じやん」という子どものつぶやき、意見が出てきた。沖縄の抱いている課題は—日本政府(わたしたちかもしれない)が押しつけている(押しつけた)—かつての戦争の終盤も今も同じである。それに気づき、少し踏み出せている子どもたちを誇りに思いたい。

があげられる。いかに時間を創出し、学年で、あるいは学校全体でとりくんでいくか、全体のものにしていくか、また、このコロナ禍で出会い学習等をいつ、どんな形でおこなえるか、が課題である。そして、戦争の加害者として、あるいは被害者として『語り部』が漸次いなくなりつつある今、次の世代へとつなぐ意味で、わたし自身が『語り継ぎ部』として微力ではあるが努めていきたいとあらためて思う日々である。

(資料1) 1年時の『伊勢に戦争があった』生徒感想抜粋を掲載した学年通信28～33

小俣中学校 1学年 学年通信

第28号 2020. 7. 22(水)

編集・発行 1年担任団

HP <http://www.ise-mie.ed.jp/~obata-j/>

夢

子どもたちに、夢と感謝の心「ありがとう」の気持ちをいつも持ってほしいと願い、
題字に添えます。

学校教育目標

豊かな心と確かな学力を
もった生徒を育成する

めざす生徒像

自ら学ぶ生徒(知)
心豊かな生徒(徳)
挑戦する生徒(体)

『伊勢に戦争があった!』平和を願い



8/6の広島原爆忌に合わせて、平和の折りづるを一人一人が織りました。

今年は残念ながら、小俣中生徒会本部役員のみなさんが代表として、広島に捧げに行くことはできません(前にもお知らせしたとおり、伊勢市教委の方々が市内中学校の折りづるを持って、代表で平和の祈りを捧げに行ってください)。

この流れで、市内の中村進一さんと阪本照子(てるこ)さんに来ていただき、「二度と戦争は起こさない」という願い・思いを強く語っていただきました。中村さんには、実話を元にした紙芝居で、阪本さんには1945年当時11歳で伊勢市の空襲に遭った、その恐怖と逃げる際の思い、そして生命の大切さを強く話していただきました。ともに、1945年7月末から8月上旬に伊勢市を襲ったB29による大規模空襲のものです。

生徒のみなさんを見ながら、淡々と、しかしながら力強く語る、紙芝居の中村さん。そして、今も空襲の実体験が目の前にあるかのように迫力ある語り口の阪本さん。お二人の約50分の語りに、みなさんも真剣に、集中して聴き入る姿がとても印象的でした。



焼夷弾の残骸を手に（中村さん）、
逃げ惑った当時の思いを語る坂本さん

○三重県の伊勢市でも戦争被害があり、あんなに空襲があつて人々が苦しめられていたんだと、紙芝居を見てよくわかりました。だから、日本ではもう戦争が絶対におきないようにしたいです。

僕たちに戦争をしてもらうために、そして、戦争を起こしてはいけないということを教えるため

に、自分で紙芝居を作っていたいただいてありがとうございました。そして、小俣中学校に来ていただいてありがとうございました。

○紙芝居を見聞きして、戦争はとてもおそろしくて、命が危険にさらされるということを知りました。伊勢市でも空襲があつて、穴をほって（防空壕）入っても、蒸し焼きにされる可能性があるし、川に逃げると途中で爆弾にあうかも知れないけれど、一か八か川に逃げて夜を越したら、あたり一面真っ白ですごくこわかったと思いました（これは坂本さんのお話です）。しかも、その空襲が11回もあつたら、寝不足になって精神的にもキツイと思います。それに新しい命も奪われるし、国のために戦った人の命も奪われたし、何百万人も人も死んだし、本当に気の毒だろうな、と思いました。いろんなことを教えてくれた中村さんと坂本さんに感謝です。ありがとうございます。

○伊勢にも戦争があつたというのは知っていましたが、そんなひどいことが身近な場所で起こっていたんだなと思い、非常に心を傷めました。このようなひどい戦争が絶対に起こらないように、僕たちができることをしていこうと思いました。

○私は戦争のことをあまり知らなかったけど、中村さんと坂本さんのおかげで、戦争がこんなにこわい思いを毎日するんだと思いました。今から75年前に、約300万人の人が亡くなったと聞いて、私は絶対に戦争を起こしてはいけないと思いました。紙芝居はとてもわかりやすく、「こんな光景だったんだ」「イメージがわく」など、とても素敵だな、と思いました。よく頭に入りました。私は平和が一番だと思います。頭の中に中村さん、坂本さんの話をに入れておきます。

○今日の話聞いて、とても戦争について考えさせられました。広島や長崎に原爆が落とされたことや戦争でたくさんの方が亡くなったのは知っていたけど、伊勢でもこんなひどいことが起こっていたのは初めて知りました。もともと、戦争は起こしてはいけないと思っていたけど、何百万人もの方が亡くなってしまったというのを聞いて、絶対に起こしてはいけないものだと思改めて思いました。戦争を体験してはいないけど、人がたくさんなくなり、食事もまともにできないし、ぜんぜん睡眠ができない、たくさんの方のことを聞いただけで絶対にしたくないと思いました。今日は思い出したくないであろう戦争の話をお聞かせくださり、ありがとうございました。

（75年前に落とされた広島への原爆、長崎への原爆、さらに6月23日沖縄戦終結の日＝今は慰霊の日と言われています。すべて体験された方々が高齢になり実体験を間近で聞く機会がなくなってきています。それを後生に伝えるのは、今生きている私たちです。伝えることで『戦争を起こしてはいけない』『今の平和を守っていこう』という思いはなんら

かの形でつながっていきます。それが大切だと思っています。そしてそれは、25年前の阪神淡路大震災、10年前の東日本大震災・・・を語ることも同じです。)

○戦争が伊勢市であったことを初めて知りました。私が産まれる何十年も前の出来事なので、戦争についてくわしく学ぶ機会はほとんどありません。でも、こうやって伝えてくれる方がいるので、身近なところで起きていた戦争について、私も知ることができました。戦争を実際に体験した人が少なくなってきた、そのときの恐ろしさや苦しさを伝えられる人が減ってきました。なので、話を聞いた人が戦争を知らない子に伝えて戦争のことをもっと広げていくべきだと思いました。

○私は、6年生の時に少し戦争の事を習って、軽い気持ちで怖いだらうなと思っていたけど、中村さんと坂本さんの話を聞いて、戦争は人の命をかたんにうばう、すごく怖くてぞんこなものだと思いました。もし、今の時代に戦争があって、お父さん、お兄ちゃんたちが戦争に行ってしまうと、命をうばわれてしまったら、一日中泣いてしまうと思います。飛行機からばくだんをたくさん落とされ、それで死んでしまうこともすごく悲しいと思いました。赤ちゃんなど、まだまだ生きていけるのに、ばくだんのせいでも命を落とす



た。一日一日をずっとおびえながら生活していくなんて、すごく大変だと思いました。戦争をぜったいしないというきまり(法)があるのですごく安心しながら生活ができ、うれしいです。ひいおばあちゃんに戦争の事をもっともっと教えてもらいたいです。

(生徒感想より一抜粋、原文のまま)

今のあなたたちは・・・
Work in Progress

問いです・・・
・愛(情)の反対は？
・→無関心 です。

問いです・・・その2
・不可能の反対は？
・→挑戦 です。

問いです・・・その3
・成功の反対は？
・→挑戦しないこと です。

失敗と書いて、「せいちょう」を讀む。失敗の教訓を学び、種々の苦難に打ち勝つ。共に進むこと。

迷ったら苦しい方を選ぶ。
自分の責任を果たす。
中村のモットーの一つ

(資料2-学年集会で使ったパワーポイント資料)

使用した言葉は、マザー・テレサさん、ジャッキー・ロビンソンさん、本田宗一郎さんのもの。

(資料3) 「オキナワ学習」後の学年通信と第1時に使用した学習プリント

小俣中学校 2学年 学年通信

第28号(通算130号)2021. 7. 2(金)

編集・発行 2年担任団

HP <http://www.ise-mie.ed.jp/~obata-j/>

今年子どもたちに、より「繋がり(つながり)」の気持ちを育ててほしいと
願い、イメージ画(福田繁雄作1975)を添えます。紫陽花(あじさい)

「オキナワ」について学びました!

先日、沖縄は、戦後76回目の慰霊の日を迎えました。6/23のことです。

翌日6/24(木)道徳の時間に、「沖縄戦」さらにはその後の沖縄の置かれた状況や現在の沖縄について、多くの画像を通して学び、考える機会を持ちました。

沖縄は、第二次世界大戦史上、日本では唯一地上戦が行われた場所で、その後連合軍の保護の下におかれ、長くアメリカ合衆国の統治にありました。日本に返還された今もなお、合衆国の軍が数多く配備され、日本にある基地の74%がこの沖縄(沖縄の国土は全体の0.6%)

にあります。みなさんがよく知っているように、周りは「美ら海(ちゅらうみ)」と呼ばれる珊瑚礁が繁茂する美しい海に囲まれた自然豊かな土地柄です。しかし、今から76年前の4/1に連合軍が上陸を開始し、日本人は軍の人だけでなく、民間の人々もあわせて約20万人の方が亡くなり、これは当時の沖縄に住んでいた人の4分の1です。6/23終結しました。

戦争での被害の史実は、私自身は生徒のみなさんに正確に伝えていくことが大切だと思っています。特に、ヒロシマ・ナガサキ、一度に両市で約20万を超える人々の命を奪い、今なおその後遺症等で苦しんでいる人もいること、そしてオキナワです。

生徒のみなさんは、昨年『二度と戦争はしません』という題で伊勢市でも大きな戦争被害があったこと、体験をされた方の話を聞きました。そして、みなさんは伊勢市出身の詩人・竹内浩三さん(この戦争中、戦地で戦死)の劇を秋に見る予定(現在、申しこみ中)です。折りにふれて、みなさんには今の平和を考える機会をぜひ持ってほしいと思っています。そして、そこからどう行動するか、はみなさん次第です。

歴史クイズにチャレンジ!!! 名前

①日本は戦後76年目になろうとしています。この「戦後」とは、何戦争?

②今、世界にある独立国は何カ国?

③①が行われた時にあった独立国は何カ国?

④そのうち、①で戦争をした国は何カ国?

⑤①で、たくさんの方が死にました。およそ何万人?

⑥①以後、世界で起きた戦争・紛争は何回以上?

⑦①以後、一度も戦争をしていない国は何カ国?

⑧今ある独立国で一番「戦後」が長い国は、どこで戦後何年?

⑨日本が「戦後76年になる今一度も戦争をしていない国」に入っているのはなぜ?

⑩それでは、今日の授業の感想を...

第2章 戦争の放棄

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権はこれを認めない
(森嶋先生作・現県教委人権教育課調査研修班班長)

学校教育目標

豊かな心と確かな学力をもった生徒を育成する

めざす生徒像

自ら学ぶ生徒(知)
心豊かな生徒(徳)
挑戦する生徒(体)

